

蘇原地区 まちづくり懇談会会議録

1. 開催日時：令和6年11月25日（月）午後7時30分から午後9時18分まで

2. 開催会場：蘇原ふれあいセンター 大研修室

3. 出席者 68名

(1) 地元参加者 53名

(2) 町執行部等 15名

町長 佐伯 正貴	副町長 安江 章	教育長 鈴木 雅史
総務課長 藤井 充宏	庁舎整備室長 竹腰 耕太郎	企画係長 鈴木 元秀
町民課長 長尾 茂気	保健福祉課長 長尾 ひろみ	農林課長 長尾 弘巳
建設環境課長 中村 豊	議会事務局長 安江 宏行	教育課長 大岩 裕樹
学校再編専門監 玉置 雅野	学校教育係長 鈴木 幸祐	記録係 安田 有希

4. 会議資料 別紙のとおり

5. 会議録

- ・教育課長 会議を開催する旨を述べた。
- ・町長 開会にあたり挨拶をした。
- ・教育長 白川町の学校再編と小・中学校一貫教育について説明した。
- ・大建設 施設一体型小・中学校について説明した。
- ・教育課長 質疑を許した。
- ・女性A 平面計画図では更衣室があるが、今の体育館に更衣室はあるのか。新校舎にはランチルームはないのか。
- ・大建設 更衣室は体育館を使用するのではなく、新校舎2階の両端に新たに設ける予定である。ランチルームについては、計画段階では案が出ていたが、面積の関係上ランチルームは設けない予定である。
- ・女性B 3D映像で具体的にイメージすることができた。暖かい空間で子供達がのびのびと過ごすことができ素敵だと思う。普段の活動と並行して工事を行っていく予定だが、授業中の騒音など生徒の生活への支障や配慮はどうなるのか。
- ・大建設 騒音と歩者分離に配慮を行う予定。騒音対策については新校舎が2階建てであるため可能な範囲で現中学校の4階で経過してもらおう。騒音の出やすい解体時期が年度末になり受験のタイミングに被ってくるため、仮囲いでパネルを作成し騒音対策として防音に力を入れていきたい。なお、解体作業の中で一番騒音の出る基礎の解体は、受験が終わったタイミングになると想定している。
- ・女性C 先ほど更衣室の話がでたが、男女で分けるなどし、教室で着替えることの無いようプライバシーに配慮してほしい。更衣室が両端にあるが、端では教員の目が届きにくく密室になるため、フロアの中央に置くなど視界に入る場所にしてほしい。教員としては普通教室に教材を置ける空間が欲しい。低学年教室にクッションフロアがあるが、ロッカーの前にあると荷物を取るたびに靴を脱ぐ作業が必要であったり、掃除が大変になるためクッションフロアを可動式にしてほしい。

- ・大建設計 更衣室について構造上広い空間を確保することが難しく、中央に使用頻度の低い部屋を置くことは望ましくない。更衣室は両端にあるが、ティーチャークーナーやラーニングストリートから目の届く場所にあるため完全に死角にはならない。教材の置き場所についてもティーチャークーナー等の机にかなりの収納を予定している。クッションフロアは可動式のを計画していきたい。
- ・男性A とても夢があり素晴らしい校舎だと思う。ラーニングストリートの活用について、大人が運用方法を考えていくと画一的なものしか思いつかないと思うが、どこが中心となって運用をしていくのか。頭の柔らかい若い人材にも関わってほしいと思う。
- ・教育長 ラーニングストリートの活用については、学校の先生で話し合っって柔軟に使用していく。
- ・学校再編専門監 令和4年から学校の先生方などが構成員となった新しい学校づくり検討委員会を立ちあげ、その委員を中心にティーチャークーナーやラーニングステーションのあり方や活用のあり方を検討してきた。将来的にも利用しない空間が生じないように話し合ったうえでの計画となっている。
- ・女性D 生徒が利用するトイレは、中央に一つしかなく小学1年生から中学3年生まで共同で使用するようだが、女の子はデリケートであるため問題なのではないか。スペースがあれば2階の両端にトイレを置くべきではないか。
- ・大建設計 トイレの便器は小学生以上の子は基本的に同じ大きさになるため身長問わず利用することができる。手洗い場については、高さや奥行きを調節していく予定。トイレの位置については、フロアの中央にあることで先生の目が届かない場所がなく、イジメの防止対策になる。また、小学生から中学生の子どもが共同で使用することで、ここでも異学年交流を図ることができる。1階にもトイレはあるため、どうしても別の場所を使用したいときは1階を使用することもできる。
- ・男性B 平面図を見て気になった点が4つある。1点目はトイレについて、児童数を考えるとこの数でトイレは足りないのではないかと。また、平面図上では多目的トイレの入口が男子トイレ側になっているが正面から入ることはできないのか。2点目あそびの森について、土地や建物の構造上日当たりが悪く積極的に使用されないのではないかと。3点目避難経路について、山側はレッドゾーンに近くなっているが避難経路は確保されているのか。4点目、児童が想定の人数を超えた場合の教室はどうなるのか。
- ・大建設計 トイレについて、便器の数は、建物の用途と収容人数によって定められる標準数以上設置する予定である。多目的トイレの入口の向きについてははまだ変更可能であるため検討していく。遊びの森については、午前中の日当たりはあまりよくないが、児童が遊ぶ屋頃には日が入る設計となっている。校舎とあそびの森は地繋がりになっており、ステージやクラフトテーブルとつながっているため利用はしやすくなっている。避難経路は複数を設定しており、どこから逃げても必ず出口が2方向以上あり、行き止まりがない設計になっている。教室については、余った教室は多目的教室になる。教室が足りない場合は多目的教室を使用する。

- ・男性C 映像を見たところ教室の一番上が開いているが寒くないのか。空調はどうなるのか。
- ・大建設計 すべての場所が学習拠点になるため、すべての空間に空調を設ける予定。教室の上は欄間を設けて音漏れなどを防ぐために閉められるようにする予定。
- ・女性D R9. 1に小中学生が同時に移動になるのか。R9. 4に引越しではなく、あえて影響の大きい受験の時期と被せるのはなぜか。1期工事では、調理室などを臨時特別教室で対応することだが、調理実習や理科の実験などすべて特別教室で対応可能なのか。
- ・教育長 11月中に1期工事を終え、冬休み前後に机をもって中学生のみ引っ越しを行う予定である。中学3年生は受験の時期になるが、少しでも新校舎を体験して卒業ができるようスケジュールを立てた。R9. 4から白川小学校と蘇原小学校が統合し、新校舎へ引っ越しを行う予定であるため、小学生と中学生では新校舎への移動のタイミングがずれる。特別教室を使用する授業は時間数が少ないため、それほど問題ではない。調理実習など特別教室では対応できない場合は町民会館にて行う予定である。
- ・女性C 平面図を見るとトイレの便器の数が男女で違うのは何故か。1階の女子トイレには洗面台が4つついているが、そんなに必要ないのではないか。トイレに限らず、子供たちが性差による不利益を受けることなく平等な教育を受けられるようにしてほしい。
- ・大建設計 1階の女子トイレの数については、今後精査を行っていく。
- ・男性D 大きな災害を考慮しているのか。安全性はどうなっているのか。
- ・大建設計 耐震については重要度係数を満たしている。1階は鉄筋で2階は木造になっているため、水害の場合は2階への避難を考えている。空調などの機械に関しても屋上に設置することで水害からの被害を抑える。台風については窓の耐風圧を計算し設計を行う予定である。土砂については、あそびの森の山側にも防護壁を設ける予定である。
- ・男性D 車いすや松葉づえなどハンディキャップのある方へ配慮はあるのか。
- ・大建設計 屋内の段差がある場所には基本的にスロープを設けたい。エレベーターを設ける計画で2階や踊り場に着床できる想定である。屋外については、車寄せからスロープを使用し屋内へ入る設計としている。
- ・総務課長 自主防災活動補助金、防災アドバイザー派遣事業について説明した。
- ・庁舎整備室長 新庁舎建設工事の進捗状況について説明した。
- ・企画係長 公共交通対策、空き家管理について説明した。
- ・農林課長 次年度からの農業振興策について説明した。
- ・保健福祉課長 暮らしに役立つ勉強会について説明した。
- ・教育課長 質疑を許した。
- ・男性E 校舎建設について、令和7年6月までに施行者選定を行い7月から工事に取り掛かるスケジュールだが、入札等に時間がかかることも考慮しているのか。ラーニングストリートにティーチャーコーナー等のL字型の設置物があるが死角

が増えるのではないか。それは固定されるのか移動可能なものなのか。

- ・大建設計 木材の確保に時間がかかると予想されるため1期工事の期間を17か月設けている。施工者選定や確認申請で時間が押すと工事工程を見直すことも考えられる。ラーニングストリートの家具は基本的に机ほどの高さのため、下に入り込まなければ死角にはならない。すべての空間を死角ゼロにすることは難しいため出来る範囲で考慮していく。
- ・女性E 蘇原保育園が閉園になることにつき、光の子保育園に向けて説明会が一切無かった理由について教えてほしい。蘇原保育園から園児が増えると考え、遊具等の改修工事を行ったが、実際はそうではなかった。民間の保育園だが、閉園についての説明会があると良かった。また、当園のことを中傷する方が多く、職員が傷ついているため配慮していただきたい。
- ・教育長 閉園する蘇原保育園については、保護者の方々に複数回説明会を開催した。光の子保育園については職員を全員集めての説明会は行っていないが、園長先生には直接説明を行った。
- ・女性E 蘇原保育園の閉園の説明会の中で、議員から「光の子保育園が閉園となることはあるのか」という質問に対し、「それは分からない」と教育長が返答したが、光の子保育園は社会福祉法人として監査資料や財産目録を毎年町へ提出しているため、ある程度は町でも把握ができてはいるはずである。
- ・教育長 「園長先生から閉園するという話は出ていない」と答えている。社会福祉法人会であるため、町は閉園することに関与できないが、町としては光の子保育園が存続していけるように補助を行ってきた。子供がいなくなったら分からないが、これからも存続していけるよう町として支援をしていく考えである。
- ・男性B 蘇原保育園の閉園の実行委員長を務めている。納得いかないところはあるが仕方ないことだと思う。閉園の話し合いの際に3つの条件の返答を求めており、町からは年度末に返答すると回答があったが、未だにも回答がない状態である。3月には新しい保育園を決め4月には園を変えないといけませんが、返答がなく補助があるのかも不明な状態では何も決めることができない。まだ年度末ではないが、町や教育委員会の方から未だに返答がないことに憤りを感じている。早急に、12月中にでも返答を頂きたい。
- ・教育長 3つの条件について、1つ目の当初の閉園時期から2年延ばしてほしいという要望に応え、実際に2年延長している。2つ目の閉園に向かい蘇原保育園と光の子保育園の交流を実施してほしいという要望にも応え、保護者が光の子保育園へ見学に行ったり、一緒に昼食を食べたりと交流を実施した。3つ目の通園補助については、通園距離に対する燃料費の補助を町全体で計画しているところである。3月の議会にて新年度予算が確定するため具体的な案内はもう少し先になる。
- ・教育課長 閉会の旨を述べた。
- ・副町長 閉会にあたり挨拶をした。